

# 上井手遺跡 3 次

2008 年

日田市教育委員会

## 序 文

本書は、当教育委員会が学校法人フレーベル学園三芳幼稚園の園舎改築に先立ち、平成 18 年度に実施した上井手遺跡の発掘調査内容をまとめたものです。

上井手遺跡は日田盆地の東部に位置する遺跡で、過去の調査では中世集落の存在を窺わせる成果が得られています。今回の調査では、中世の遺構や遺物のほか近世のものも確認され、日田市の歴史を考える上で貴重な成果を得ることができました。

こうした発掘調査の成果をまとめた本書が、今後、文化財の保護や学術研究、地域の歴史を学ぶための教材などにご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、三芳幼稚園理事長の西田英子氏をはじめ、調査にご協力いただきました方々や発掘作業に従事いただきました作業員の皆様に対して、心から厚くお礼申し上げます。

平成 20 年 3 月

日田市教育委員会

教育長 合原 多賀雄

## 例 言

1. 本書は、日田市教育委員会が平成 18 年度に実施した上井手遺跡の 3 次発掘調査報告書である。
2. 調査は、幼稚園舎建設に伴い、学校法人フレーベル学園三芳幼稚園の委託業務として、日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
3. 調査にあたっては、西田英子氏のご協力を得た。
4. 調査現場での実測は渡邊・矢羽田が行ったほか、有限会社雅企画に委託した。また、杉野貴幸（当時文化財保護課調査補助員）の協力を得た。写真撮影は渡邊が行った。
5. 空中写真は㈱九州航空に委託し、その成果品を使用した。
6. 本書に掲載した遺物の実測・写真撮影は矢羽田が行い、遺構・遺物の製図は矢羽田のほか、中川照美（文化財保護課整理作業員）の協力を得た。
7. 挿図中の方位は全て磁北を示す。
8. 写真図版の遺物に付した数字番号は、全て挿図番号に対応する。
9. 出土遺物及び図面、写真類は日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
10. 本書の執筆・編集は矢羽田が行った。

## 目次

I 調査に至る経過と組織	1
II 遺跡の立地と環境	2
III 調査の内容	
(1) 調査の概要	3
(2) 基本土層	3
(3) 遺構と遺物	4
IV まとめ	13

## 挿図目次

第1図 調査区位置図 (1/5000)	1
第2図 周辺遺跡分布図 (1/25000)	2
第3図 遺構配置図及び基本土層図 (1/300)	
※基本土層図は 1/30	3
第4図 1～3号掘立柱建物実測図 (1/100)	4
第5図 4・5号掘立柱建物実測図 (1/100)	5
第6図 柵列実測図 (1/100)	5
第7図 1号井戸実測図 (1/60)	5
第8図 1～17号土坑実測図 (1/60)	6
第9図 18～30号土坑実測図 (1/60)	7
第10図 1～3号流路実測図 (1/100)	9
第11図 出土遺物実測図① (1/4、16のみ1/6)	11
第12図 出土遺物実測図② (1/4)	12

## 表目次

第1表 出土土器観察表①	14
第2表 出土土器観察表②	15
第3表 出土瓦・石製品・土製品等観察表	15

## 図版目次

- ① 調査区近景 (北から)
- ② 1・2号掘立柱建物 (真上から)
- ③ 3～5号掘立柱建物 (真上から)
- ④ 1号井戸 (南から)
- ⑤ 出土土師質土器
- ⑥ 出土瓦質土器
- ⑦ 出土輸入陶磁器
- ⑧ 出土近世遺物

## 本文写真目次

写真1 調査風景	1
写真2 基本土層	3



日田市の位置

## I 調査にいたる経過と組織

平成 17 年 11 月 5 日付けで学校法人フレーベル学園三芳幼稚園理事長西田英子氏より市教育委員会へ、日田市大字日高 923-1 ほかでの園舎改築工事に先立つ事前の照会文書が提出された。この開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である上井手遺跡に該当し、これまでも周辺で調査がなされていることから、その取り扱いについて協議が必要である旨の文書回答を行った。

その後、11 月 11 日には予備調査の依頼文書が提出され、これを受けて 11 月 14 日に確認調査を実施したところ、遺物や柱穴などの遺構が確認され、遺跡の所在が明らかとなった。こうした結果をもとに、開発主と遺跡の取り扱いについて協議を重ねたところ、建物の地下に地盤改良を目的とした基礎が約 6m 間隔で格子状に入れられることから、遺跡の保存は困難であると判断し、園舎部分 960 m<sup>2</sup>を全面発掘調査することとした。

そこで、開発主と平成 18 年 5 月 16 日に受託契約を取り交わし、6 月 5 日から 7 月 13 日まで発掘調査を実施した。整理作業は 8 月 1 日から 9 月 25 日までの期間実施し、平成 19 年度に報告書作成を行った。

調査に関する日誌は以下のとおりである。

- 6 月 5 日 機械による表土除去作業を開始する。
- 6 月 7 日 遺構検出及び遺構の掘り下げ作業を開始する。
- 7 月 3 日 空中写真撮影を実施し、日田市立三芳小学校 6 年生向け現地説明会を開催する。
- 7 月 5 日 遺構の掘り下げ作業が完了する。
- 7 月 13 日 調査区を埋め戻して調査を終了する。



写真 1 調査風景

なお、調査組織は次のとおりである。

平成 18・19 年度

- 調査主体 日田市教育委員会
- 調査責任者 諫山康雄（日田市教育委員会教育長、～平成 19 年 8 月 17 日）、合原多賀雄（同教育長、平成 19 年 9 月 27 日～）
- 調査統括 後藤 清（日田市教育庁文化財保護課長、平成 18 年度）、梶原孝史（同文化財保護課長、～平成 19 年 9 月 30 日）、原田文利（同文化財保護課長、平成 19 年 10 月 1 日～）
- 調査事務 高倉隆人（日田市教育庁文化財保護課課長補佐兼埋蔵文化財係長、平成 18 年度）、井上正一郎（同文化財保護課課長補佐兼埋蔵文化財係長、平成 19 年度）、田中正勝（同専門員）、伊藤京子（同専門員）、塚原美保（同主査、平成 19 年度）、中村邦宏（同主事補、平成 18 年度）
- 調査担当 渡邊隆行（同主任）、矢羽田幸宏（同主事）
- 調査員 今田秀樹（同主任、平成 19 年度～主査）、行時桂子（同主任）若杉竜太（同主任）
- 調査作業員 足立米子、穴井正利、諫元正隆、荏隈マサ子、河津信義、河津モリ、河部松子、北澤幾子、小下一、五島絹代、財津勲子、定賀和子、高倉美津子、谷口芳枝、中島カズ子、信岡アイ子、藤本弥八、本松シヅエ、森本絹子、吉長利夫
- 整理作業員 穴井トヨ子、伊藤一美、武石和美、中原琴枝



第 1 図 調査区位置図 (1/5000)

## II 遺跡の立地と環境

上井手遺跡は、日田盆地の東端を形成している会所山丘陵の麓、日田盆地を東西に流れる三隈川との間の沖積地に存在する。遺跡の西側には三隈川の支流である中野川が南から北へ縦断しており、今回の調査区は中野川右岸の標高約 90m の沖積地上に立地している。遺跡は『豊後国風土記』に記される古代日田郡に存在した五つの郷の一つである鞍編郷ゆぎあみに属しており、その名は今でも遺跡に隣接する刃連町に名残が見られる。鞍編郷は古代日田を支配した日下部氏の拠点であり、調査区の北東約 350m の独立丘陵上に存在する、装飾古墳を有する史跡法恩寺山古墳群は日下部氏との関係が想定されている。また、11 世紀には日下部為行により五つの原野が開発されたと『宇佐宮神領大鏡』に記されており、その一つである竹田別符は今でも地名に名を残し、隣接する本遺跡との関係が想定されている。

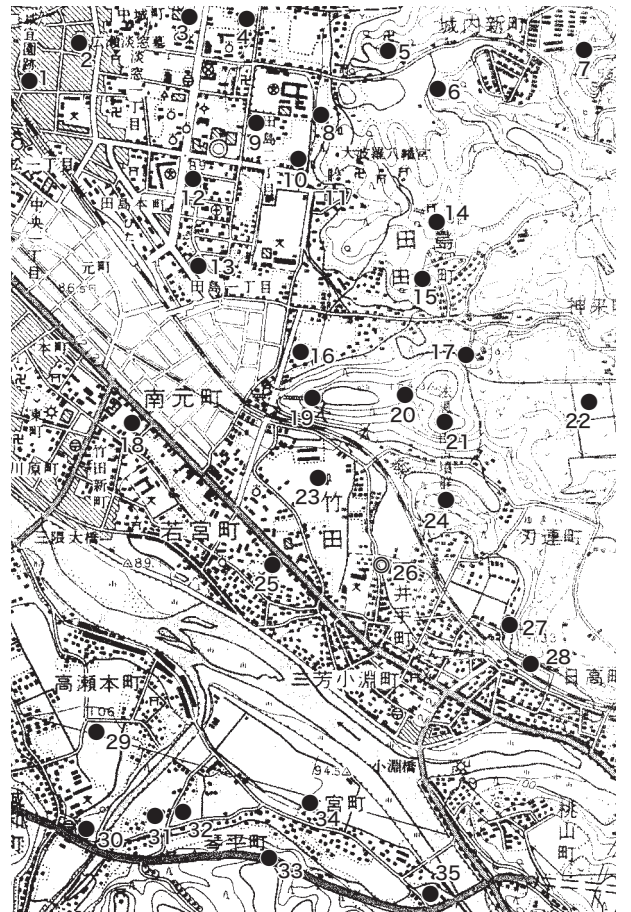
周辺の遺跡を概観すると、会所山丘陵上に鳥羽塚古墳・後山古墳・会所山古墳、丘陵裾の沖積地上に鬼塚古墳、西に柳ノ本遺跡、東に平松遺跡・東寺横穴群・日高遺跡などの存在が知られているが、いずれも未調査でその詳細はわかっていない。会所山丘陵の北に連なる大原丘陵上には古墳時代の墳墓群が確認されている赤迫遺跡、市内最大の円墳で、唯一円筒埴輪を有する薬師堂山古墳、未調査であるが丸尾神社古墳・丸尾古墳などの存在が知られている。丘陵の裾野に存在する大波羅遺跡 1 次調査区では古代の墨書土器が出土しており、官人層や寺院などの存在が想定されている。また、大原丘陵と会所山丘陵に挟まれた沖積地には会所宮遺跡が存在し、弥生時代の土坑などが確認されている。北東の丘陵上には元宮遺跡が存在し、弥生時代後期の甕棺墓、古墳時代後期の石蓋土坑墓や、室町時代建立とみられる笠塔婆が確認されている。元宮遺跡の北を流れる求来里川流域では、近年発掘調査が集中しており、弥生時代中期～後期の集落が確認された小西遺跡、弥生時代中期～古墳時代中期の集落が確認された金田遺跡、縄文時代後期の包含層や古墳時代中期～後期集落、中世の水田層、近世の溝などが発見された町ノ坪遺跡、縄文時代後期の遺物や古墳時代中期～後期の集落、中世の掘立柱建物などが確認された求来里平島遺跡などの遺跡が発見されている。

また、三隈川の対岸は古代には石井郷に属し、条里地割も制定されていた。この周囲には縄文時代後期の土坑などが検出された高瀬条里深野田地区、中世の掘立柱建物群が確認されている高瀬条里永平寺地区、複室構造の横穴式石室をもつ市指定史跡惣田塚古墳、縄文時代～古代にかけての住居や中世墓などが確認されている手崎遺跡等が存在する。

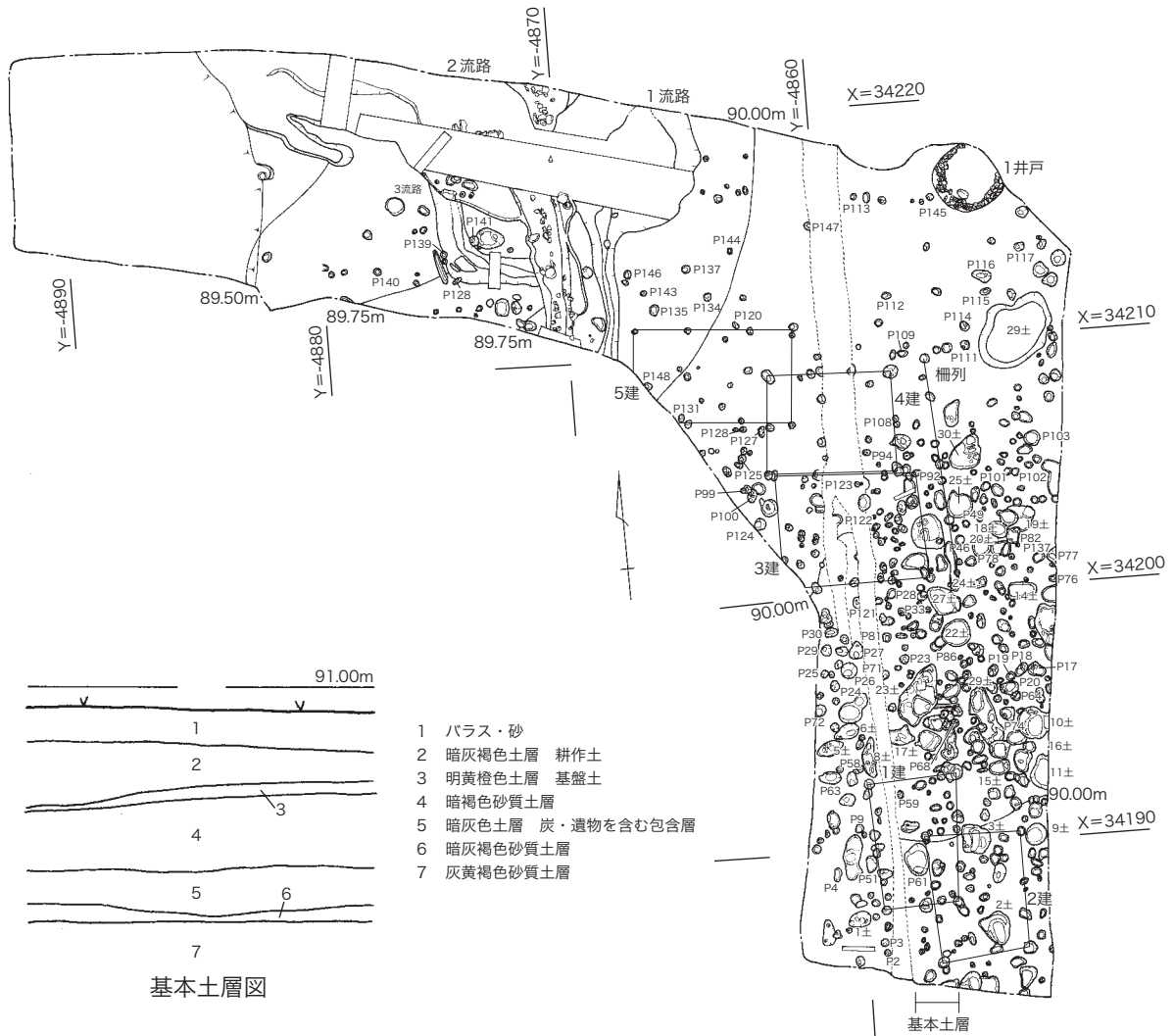
### 《参考文献》

若杉竜太ほか『上井手遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第 76 集  
日田市教育委員会 2007

1. 史跡威宜園跡 2. 史跡広瀬淡窓墓 3. 日田条里四反畑地区 4. 大波羅遺跡 4 次 5. 堤城跡 6. 赤迫遺跡 7. 中尾原遺跡 8. 大波羅遺跡 1 次 9. 大波羅遺跡 3 次 10. 大波羅遺跡 2 次 11. 薬師堂山古墳 12. 日田条里飛矢地区 13. 日田条里大原地区 14. 丸尾神社古墳 15. 丸尾古墳 16. 会所宮遺跡 17. 後山古墳 18. 入龍遺跡 19. 鳥羽塚古墳 20. 会所山遺跡 21. 会所宮古墳 22. 元宮遺跡 23. 鬼塚古墳 24. 史跡法恩寺山古墳群 25. 柳ノ本遺跡 26. 上井手遺跡 27. 平松遺跡 28. 東寺横穴群 29. 高瀬条里永平寺地区 30. 高瀬条里深野田地区 31. 惣田塚古墳 32. 惣田遺跡 33. 口が原遺跡 34. 大宮遺跡 35. 手崎遺跡



第 2 図 周辺遺跡分布図 (1/25000)



第3図 遺構配置図及び基本土層図 (1/300) ※基本土層図は 1/30

### Ⅲ 調査の内容

#### (1) 調査の概要 (第3図)

今回の調査は試掘調査の結果を踏まえて、遺構検出面まで機械で掘り下げを行い、遺構の確認を行った。調査区は東西約 41 m、南北約 36 m の L 字形を呈し、面積は約 960 m<sup>2</sup> を測る。標高は約 90.00 m で、ほぼ平坦であるが、調査区の西側で検出された流路を境に中野川に向かって僅かに傾斜する地形であった。

調査において検出された遺構は建物 5 棟、柵列 1 列、井戸 1 基、土坑 28 基、柱穴多数である。土坑については、調査中に 7 号土坑及び 26 号土坑を精査した結果、土坑と認定する根拠に乏しいため、これを欠番とした。これらの遺構の埋土はほとんどが暗灰色土であるが、10・29 号土坑が淡灰色土、2・3・9 号土坑が炭・焼土混じりの灰色土であった。

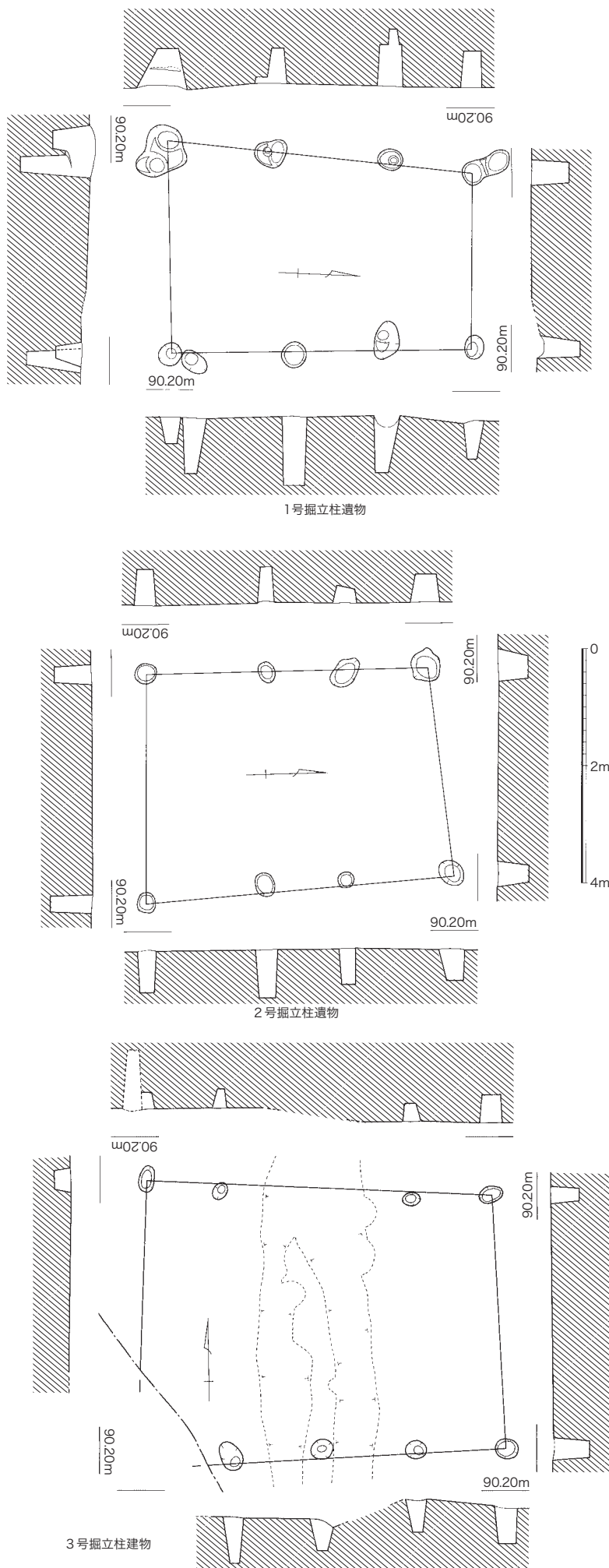
#### (2) 基本土層 (第3図)

調査区南端で土層堆積状況の観察を行った。

現在の地表面はバラス敷きで、その下に水田層(2・3層)が確認されている。その下には暗灰色の砂質土層(4層)が約 30cm 堆積し、さらに下位の暗灰色土層(5層)は炭・遺物を包含する。遺構検出面は 6 層の暗灰褐色砂質土にあたり、この面から多くの柱穴・土坑等が検出されている。



写真2 基本土層



### (3) 遺構と遺物

1号掘立柱建物（第4図、図版②） 調査区南側で確認された1間×3間の建物である。規模は心心距離で梁行3.6m×桁行5.0m、柱穴の深さは50cm～120cmを測る。瓦質土器の風炉（第11図1）が出土している。

2号掘立柱建物（第4図、図版②） 調査区南側で確認された1間×3間の建物で、一部が1号建物と切り合うが前後関係は不明である。規模は心心距離で梁行3.9m×桁行4.8m、柱穴の深さは50cm～80cmを測る。土師質土器の小皿（第11図2）が出土している。

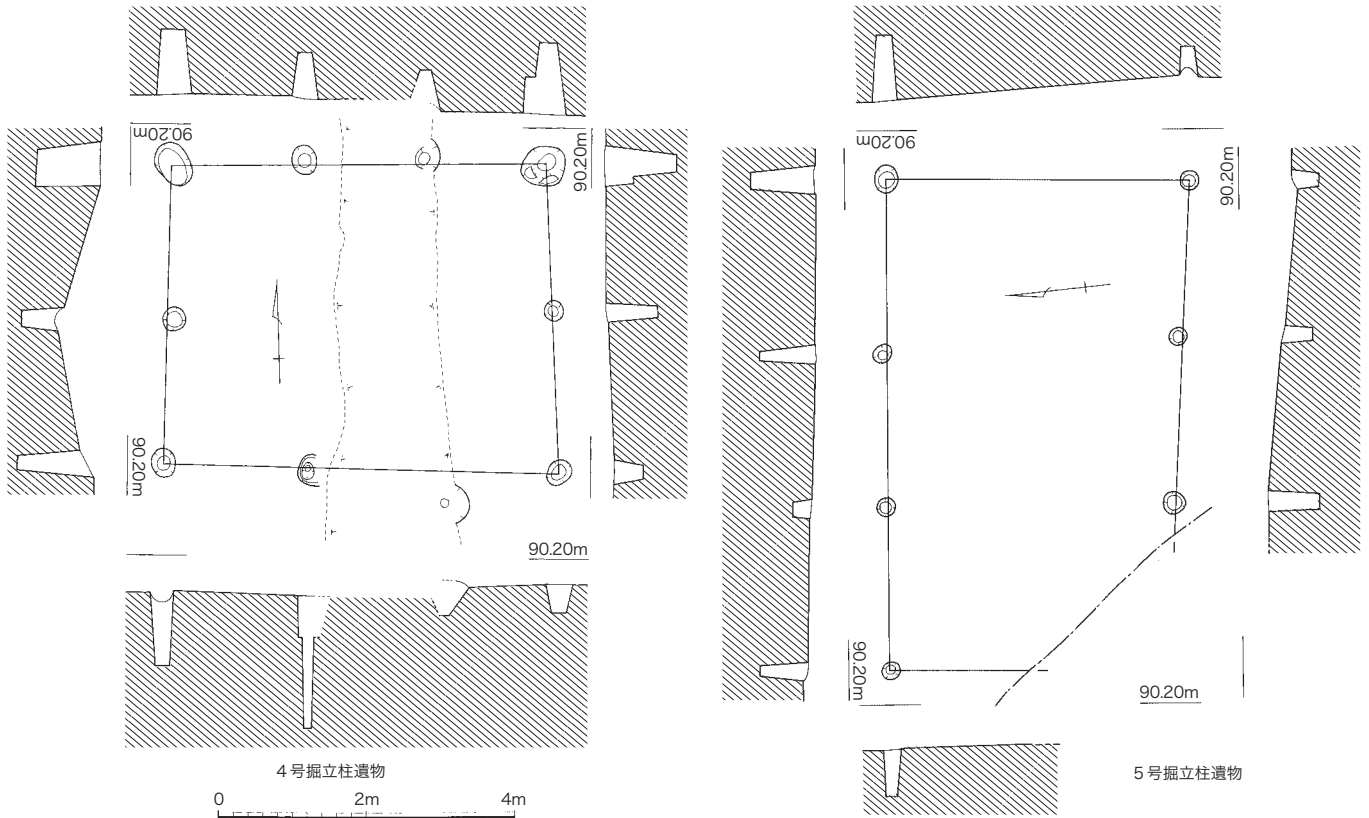
3号掘立柱建物（第4図、図版③） 調査区中央で確認された1間×4間の建物である。柱穴の一部が削平を受けており、また、南西側の一部が調査区外へ展開する。規模は心心距離で梁行4.3m×桁行5.8m、柱穴の深さは25cm～80cmを測る。青磁の碗（第11図3）が出土している。

4号掘立柱建物（第5図、図版③） 3号掘立柱の北側に隣接して確認された2間×3間の建物である。柱穴の一部が削平を受けている。規模は心心距離で梁行約4.0m×桁行5.1m、柱穴の深さは35cm～175cmを測る。土師質土器杯（第11図4）、青磁碗（第11図6）が出土している。

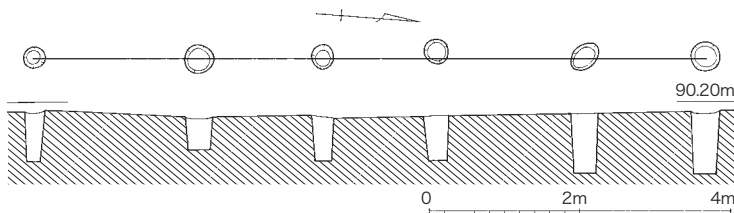
5号掘立柱建物（第5図、図版③） 調査区中央で確認された1間×3間の建物で、一部が4号掘立柱建物と切り合うが前後関係は不明である。規模は心心距離で梁行約4.0m×桁行約6.5m、柱穴の深さは25cm～85cmを測る。土師質土器杯の小片が出土しているが、図示できるものはなかった。

柵列（第6図、図版③） 調査区の中央、3号掘立柱建物と4号掘立柱建物の東側に沿うように確認された。6つの柱穴が直線上に並び、規模は心心距離で8.8mである。土師質土器杯の小片が出土しているが、図示できるものはなかった。

第4図 1～3号掘立柱建物実測図 (1/100)



第5図 4・5号掘立柱建物実測図 (1/100)



第6図 柵列実測図 (1/100)

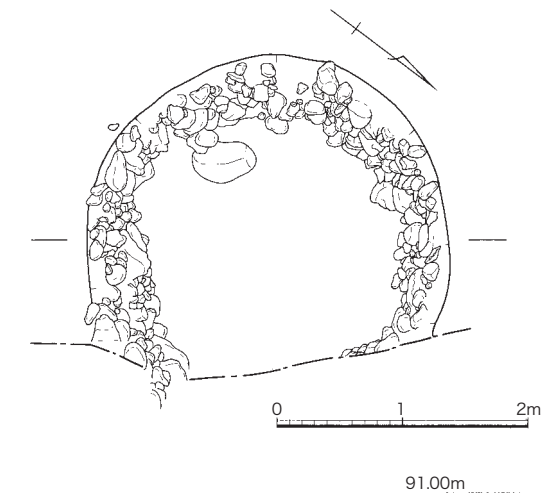
1号井戸 (第7図、図版④) 調査区の北端で検出された石組の井戸で、一部が調査区外へ展開する。狭く、崩落の危険性があり、湧水が著しいことがそれに拍車をかけていた。今回の工事では部分的にしかり削平は及ばないため、完掘を断念し土層図の作成及び裏込めの確認は行わなかった。掘方の直径約288cm、石組枠の直径約200cm、深さは確認できただけで104cmを測る。

出土遺物 (第11図) 1号井戸からは総じて近世の遺物が出土している。7～10は染付である。7は小皿、8は碗で、9・10の器種については不明である。11は青磁碗である。12・13は播鉢である。15は甕である。16は石臼である。上白で、側面には挽き手を差し入れるための孔を設ける。

1号土坑 (第8図) 調査区の南端近くで検出された土坑である。規模は南北約62cm、東西約94cm、深さ約54cmを測り、平面は楕円形で、逆台形状の断面を呈する。

2号土坑 (第8図) 1号土坑の東で検出された土坑で、南北約117cm、東西116cm、深さ約40cmを測る。平面は歪な楕円形、断面は逆台形状である。

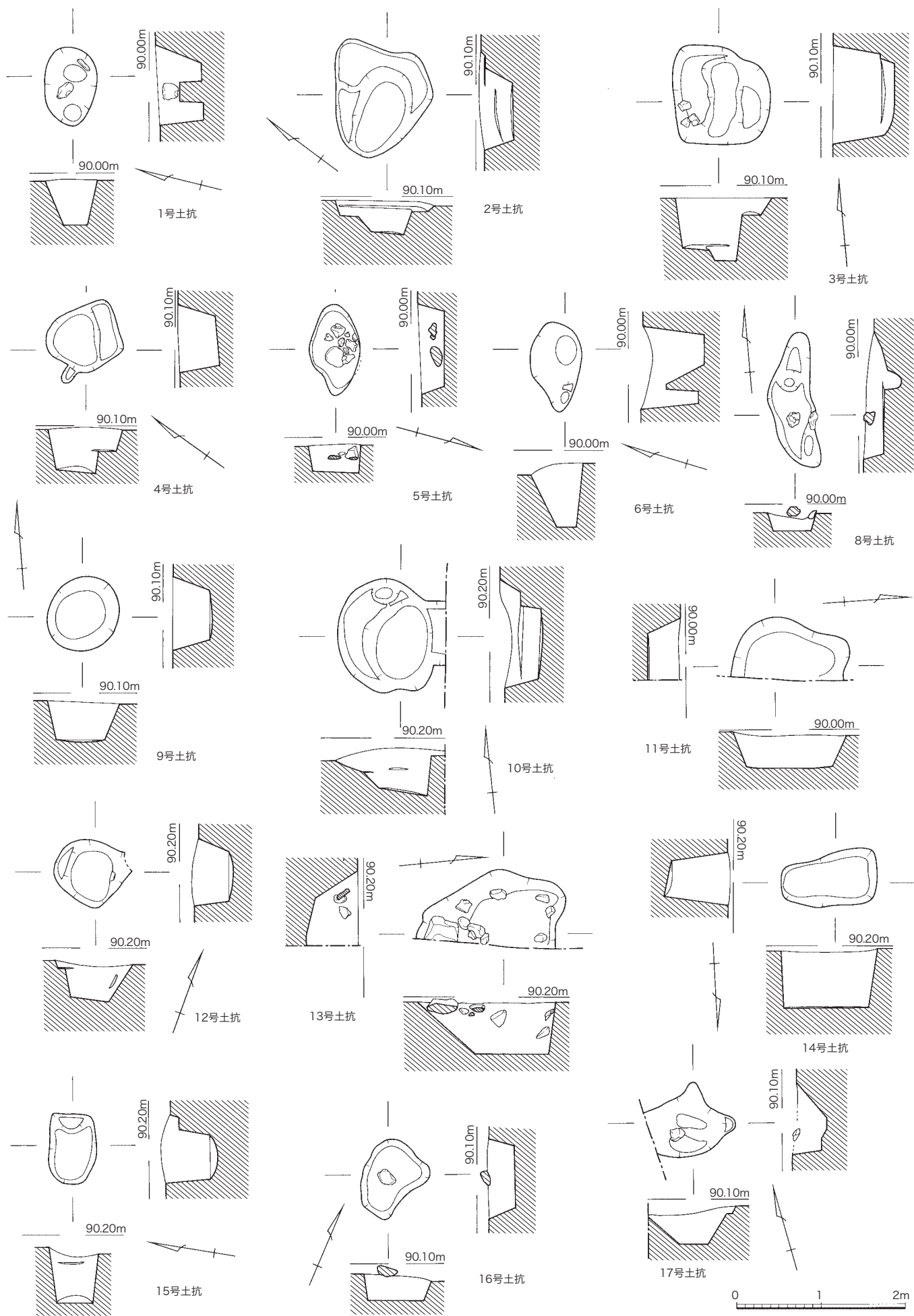
3号土坑 (第8図) 2号土坑の北で検出された土坑である。南北約116cm、東西約113cm、深さ約73cmを測り、



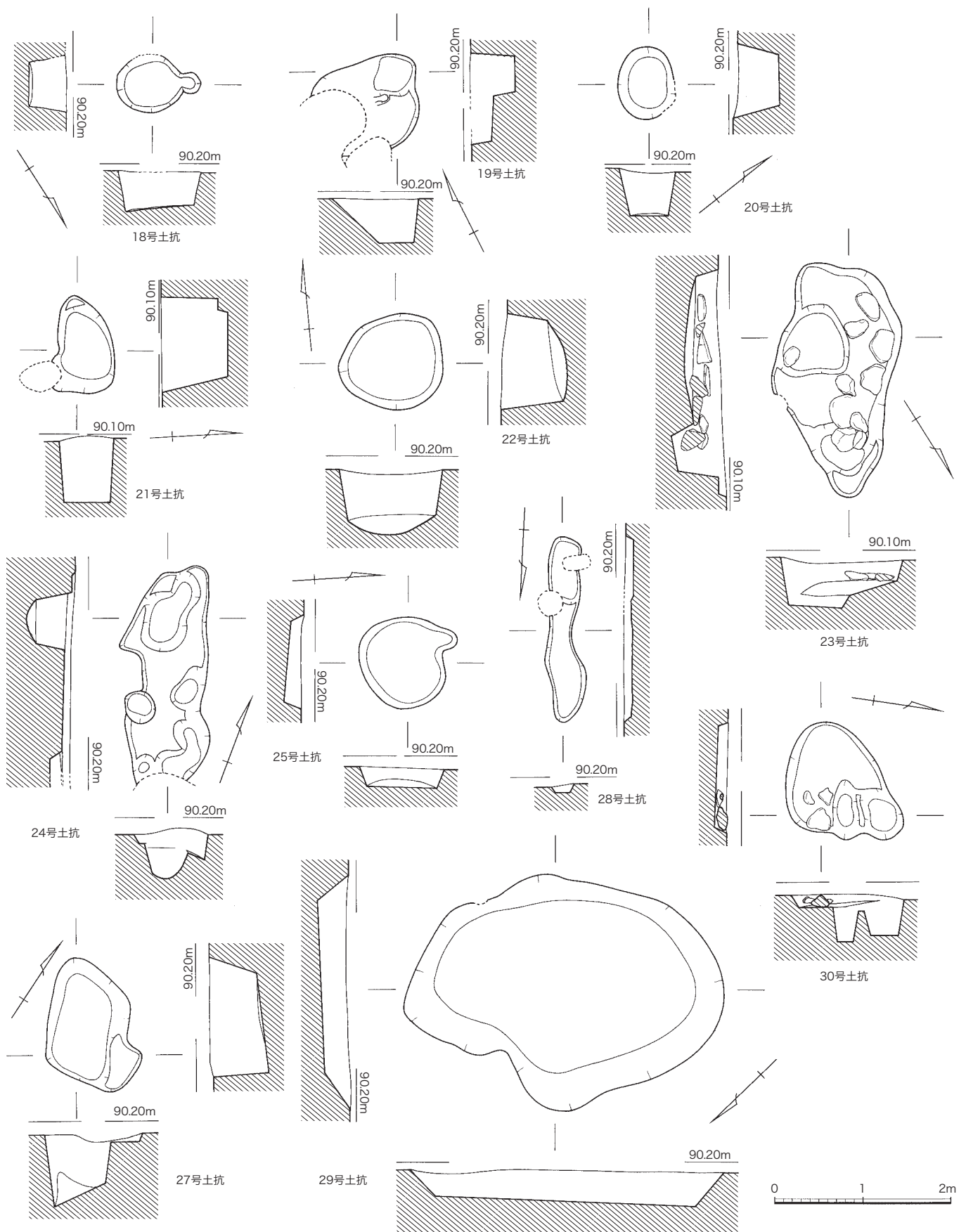
第7図 1号井戸実測図 (1/60)







第8图 1~17号土坑实测图 (1/60)



第9図 18～30号土坑実測図 (1/60)

隅丸方形に近い平面、逆台形状の断面を呈する。土師質土器片（第11図26）が出土している。

4号土坑（第8図）3号土坑の北で検出された土坑である。南北約90cm、東西約80cm、深さ約44cmを測り、

平面は歪な楕円形で、断面は逆台形状である。土師質土器の小皿（第 11 図 24）が出土している。

5 号土坑（第 8 図） 4 号土坑の西側で検出された。南北約 61cm、東西約 108cm、深さ約 30cm を測り、楕円形の平面、逆台形状の断面を呈する。

6 号土坑（第 8 図） 5 号土坑付近で検出された。南北約 60cm、東西約 108cm、深さ約 75cm を測る。平面は楕円形で、逆台形状の断面を呈する。

8 号土坑（第 8 図） 6 号土坑の付近で検出された。南北約 156cm、東西約 52cm、深さ約 22cm を測る。平面は細長い楕円形で、逆台形状の断面を呈する。

9 号土坑（第 8 図） 調査区の東端、3 号土坑の近くで検出された。南北約 88cm、東西約 85cm、深さ約 47cm を測り、ほぼ円形の平面、逆台形状の断面を呈する。

10 号土坑（第 8 図） 調査区の東端で検出されており、一部が調査区外へ広がる。南北約 135cm、東西約 130cm、深さ約 55cm を測り、円形の平面、逆台形状の断面を呈する。

11 号土坑（第 8 図） 10 号土坑の南で検出されており、一部が調査区外へと広がる。南北約 134cm、東西約 74cm、深さ約 40cm を測り、平面は楕円形、断面は逆台形状である。

出土遺物（第 11 図） 17 は瓦のようであるが、反りがなく平坦な形をしており、屋根葺きに用いられたとは考え難い。海鼠壁に用いられたものか。18・19 は染付碗で、18 は朝妻焼、19 は古伊万里の「渦福」である。高台内に二重方形枠で囲まれた福字銘が記されており、最低でも 2 重の渦が確認できる。

12 号土坑（第 8 図） 11 号土坑付近で検出されており、一部を柱穴に切られる。南北約 78cm、東西約 90cm、深さ約 50cm を測り、円形に近い平面、逆台形状の断面を呈する。土師質土器環（第 11 図 27）が出土している。

13 号土坑（第 8 図） 調査区の東端で検出され、一部が調査区外へと広がる。南北約 163cm、東西約 90cm、深さ約 60cm で、楕円形の平面、逆台形状の断面を呈する。瓦質播鉢（第 11 図 22）が出土している。

14 号土坑（第 8 図） 13 号土坑付近で検出された。南北約 62cm、東西約 113cm、深さ約 65cm を測る。平面は隅丸の長方形、断面は逆台形状である。土師質土器の小皿（第 11 図 25）が出土している。

15 号土坑（第 8 図） 12 号土坑の付近で検出された。南北約 58cm、東西約 82cm、深さ約 62cm を測る。平面はつぶれた楕円形、断面は逆台形状である。

16 号土坑（第 8 図） 15 号土坑の付近で検出された。南北約 92cm、東西約 78cm、深さ約 32cm を測る。平面は歪な楕円形、断面は逆台形状である。

17 号土坑（第 8 図） 4 号土坑付近で検出された。南北約 87cm、東西約 104cm、深さ約 36cm である。平面は歪な楕円形で、断面はレンズ状を呈する。

18 号土坑（第 9 図） 調査区中央付近で検出された。南北約 64cm、東西約 96cm、深さ約 40cm を測り、平面は歪な楕円形、断面は逆台形状である。土師質土器環（第 11 図 28）が出土している。

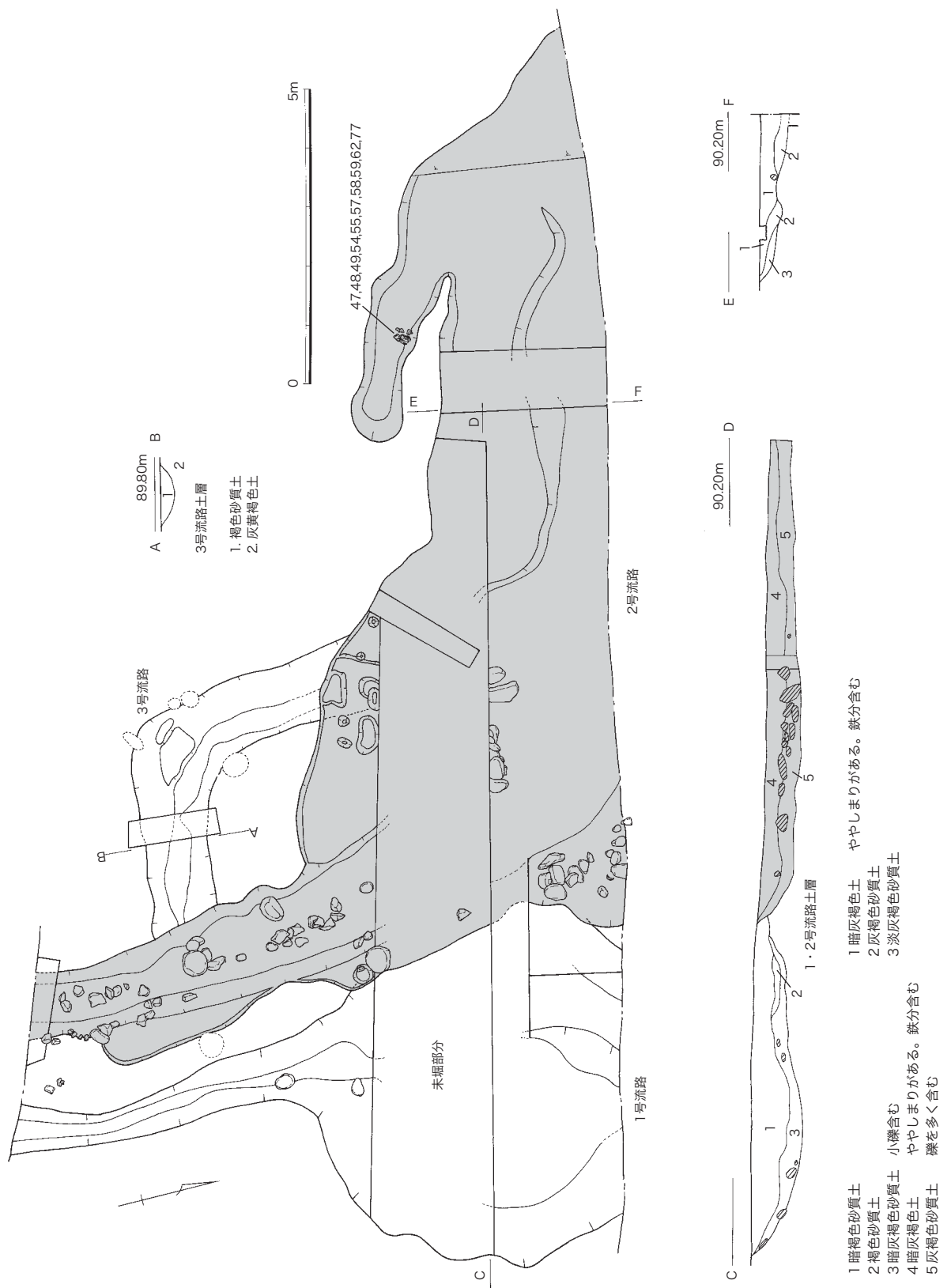
19 号土坑（第 9 図） 調査区中央付近で検出され、一部を 18 号土坑に切られる。南北約 103cm、東西約 99cm、深さ約 51cm を測る。平面は歪な円形で、断面は逆台形状である。

20 号土坑（第 9 図） 18 号土坑付近で検出されている。南北約 84cm、東西約 64cm、深さ約 54cm を測り、楕円形の平面、逆台形状の断面を呈する。土師質土器環（第 11 図 29）が出土している。

21 号土坑（第 9 図） 調査区中央付近で検出され、一部を柱穴に切られる。南北約 58cm、東西約 107cm、深さ約 75cm を測る。平面は歪な楕円形で、断面は逆台形状である。土師質土器環（第 11 図 30）が出土している。

22 号土坑（第 9 図） 調査区やや南よりで検出された。南北約 110cm、東西約 116cm、深さ約 74cm を測り、円形の平面、釣鐘状の断面を呈する。

23 号土坑（第 9 図） 17 号土坑付近で検出された。南北約 256cm、東西約 138cm、深さ約 54cm を測る。平



第10図 1～3号流路実測図 (1/100)

面は不整形で、レンズ状の断面を呈する。土師質土器環（第11図31）が出土している。

24号土坑（第9図） 調査区東端近くで検出され、一部を12号土坑に切られる。南北約228cm、東西約82cm、深さ約52cmを測る。平面・断面ともに不整形である。土師質土器環（第11図32・33）のほか、瓦質土器片（第11図23）が出土しているが、器種不明である。

25号土坑（第9図） 調査区中央付近で検出された。南北約96cm、東西約104cm、深さ約22cmを測る。平面は歪な円形、断面はレンズ状である。

27号土坑（第9図） 22号土坑付近で検出された。南北約119cm、東西約127cm、深さ約66cmを測る。平面は歪な方形、断面は歪な逆台形状である。

出土遺物（第11図） 20・21は27号土坑から出土している。20は白磁の小皿で高台を削りだして4つの脚を作り出しており、内底面には同一器種を重ねた跡が見られる。21は器種不明の瓦質土器である。外面に花卉のスタンプを施す。

28号土坑（第9図） 27号土坑付近で検出され、一部を柱穴に切られる。南北約208cm、東西約26cm、深さ約10cmである。平面は細長い楕円形で、断面はレンズ状を呈する。

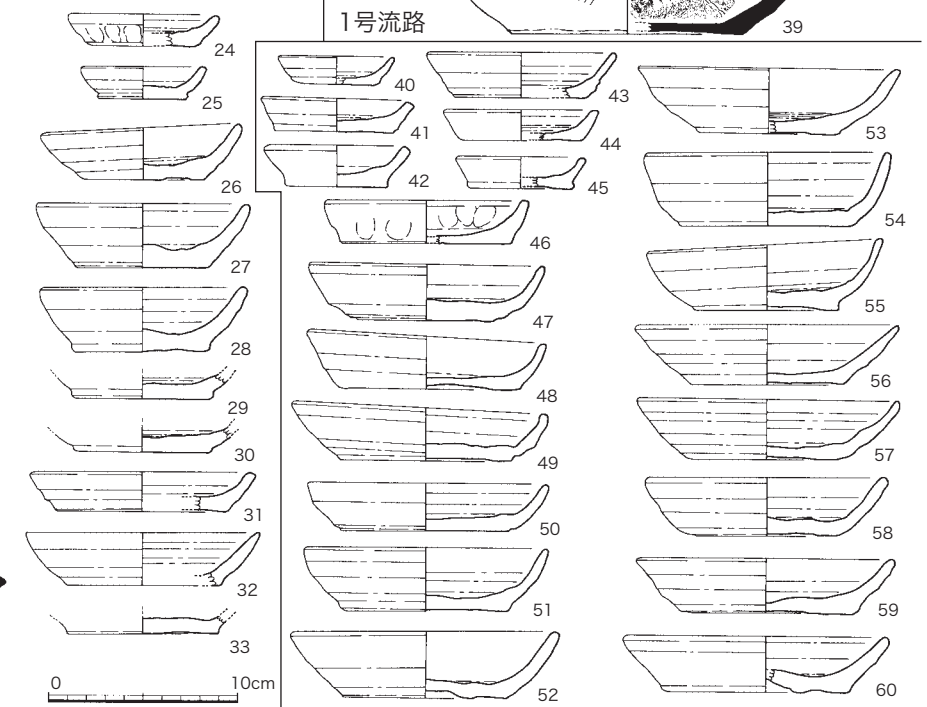
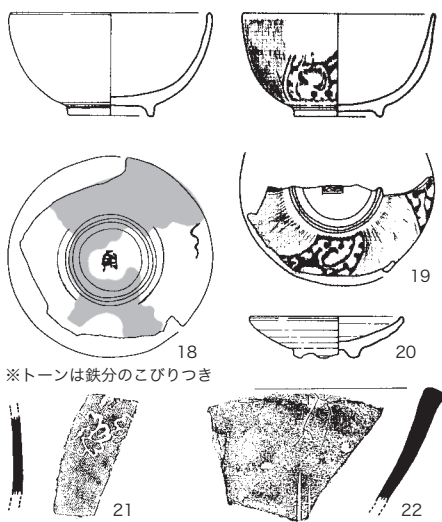
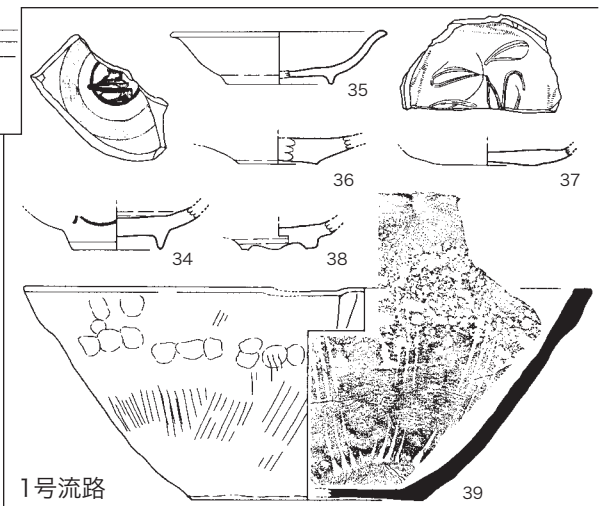
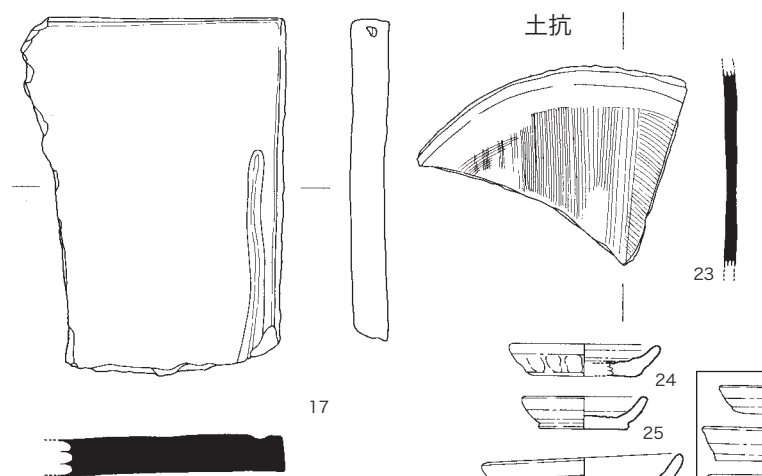
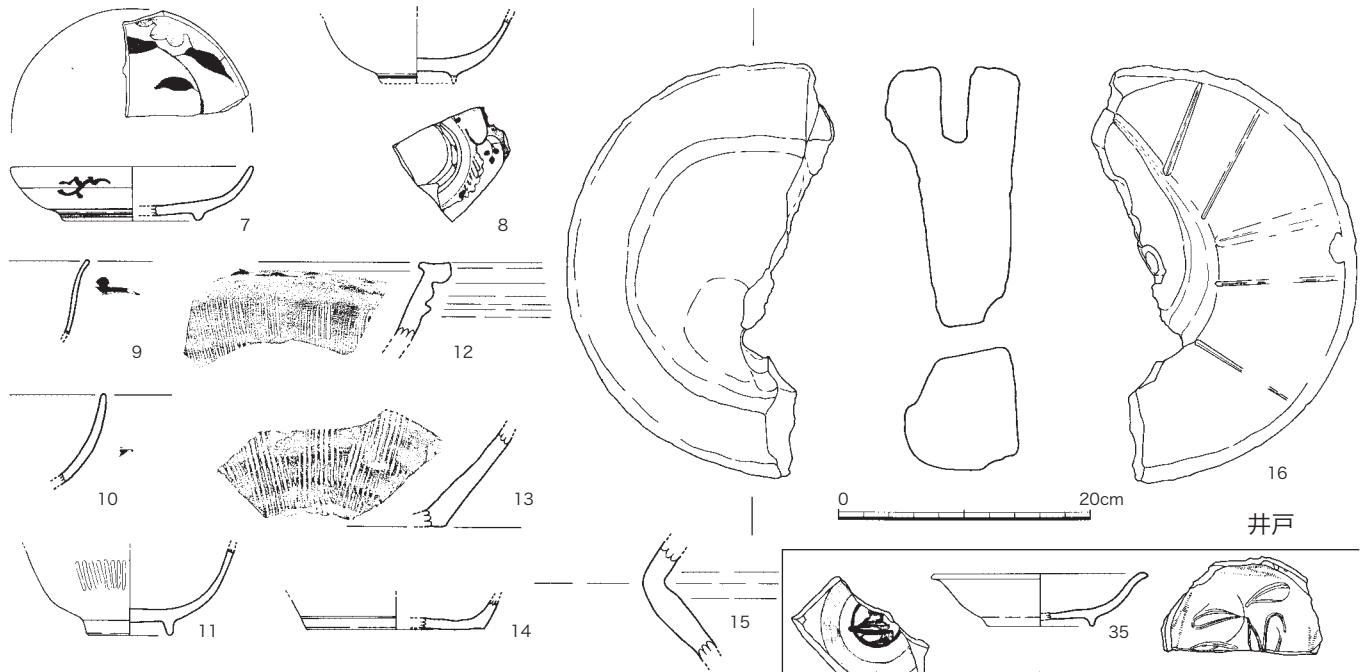
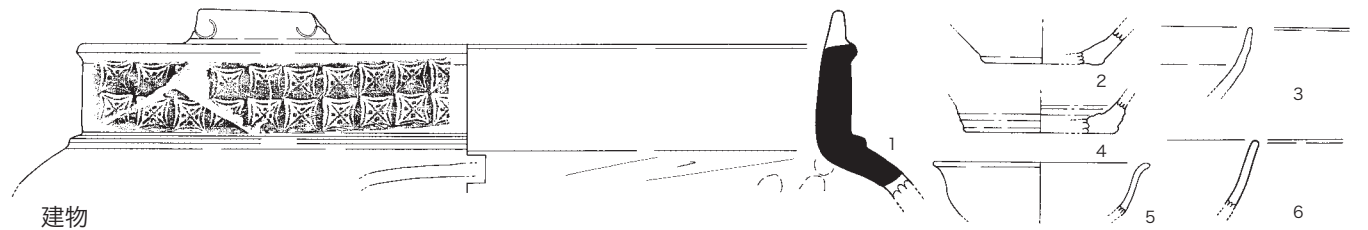
29号土坑（第9図） 調査区北よりで検出された。南北約355cm、東西約258cm、深さ約28cmをはかる。平面は歪な楕円形、断面はレンズ状を呈する。

30号土坑（第9図） 調査区やや北よりで検出された。南北約128cm、東西約124cm、深さ約44cmを測る。平面は歪な円形、断面は歪なレンズ状で部分的に逆断面上に掘り込まれる。

流路（第10図、図版③） 調査区の西側で確認された。当初は溝かと思われたが、平面形や土層の堆積状況などから、人為的に掘り込まれた溝ではなく、自然流路であると判断した。3条の流路がまとまって検出され、東から1→3号流路の順で並ぶ。1・3号流路は中央の2号流路に切られており、1号流路と3号流路は直接接していないため、その前後関係は不明である。いずれの流路からも中世の遺物が出土しており、1・2号流路で特に出土量が多い。なおこれら流路より西側では、中野川に向かって地形が緩やかに下降し、遺構の密度も極端に低くなる。

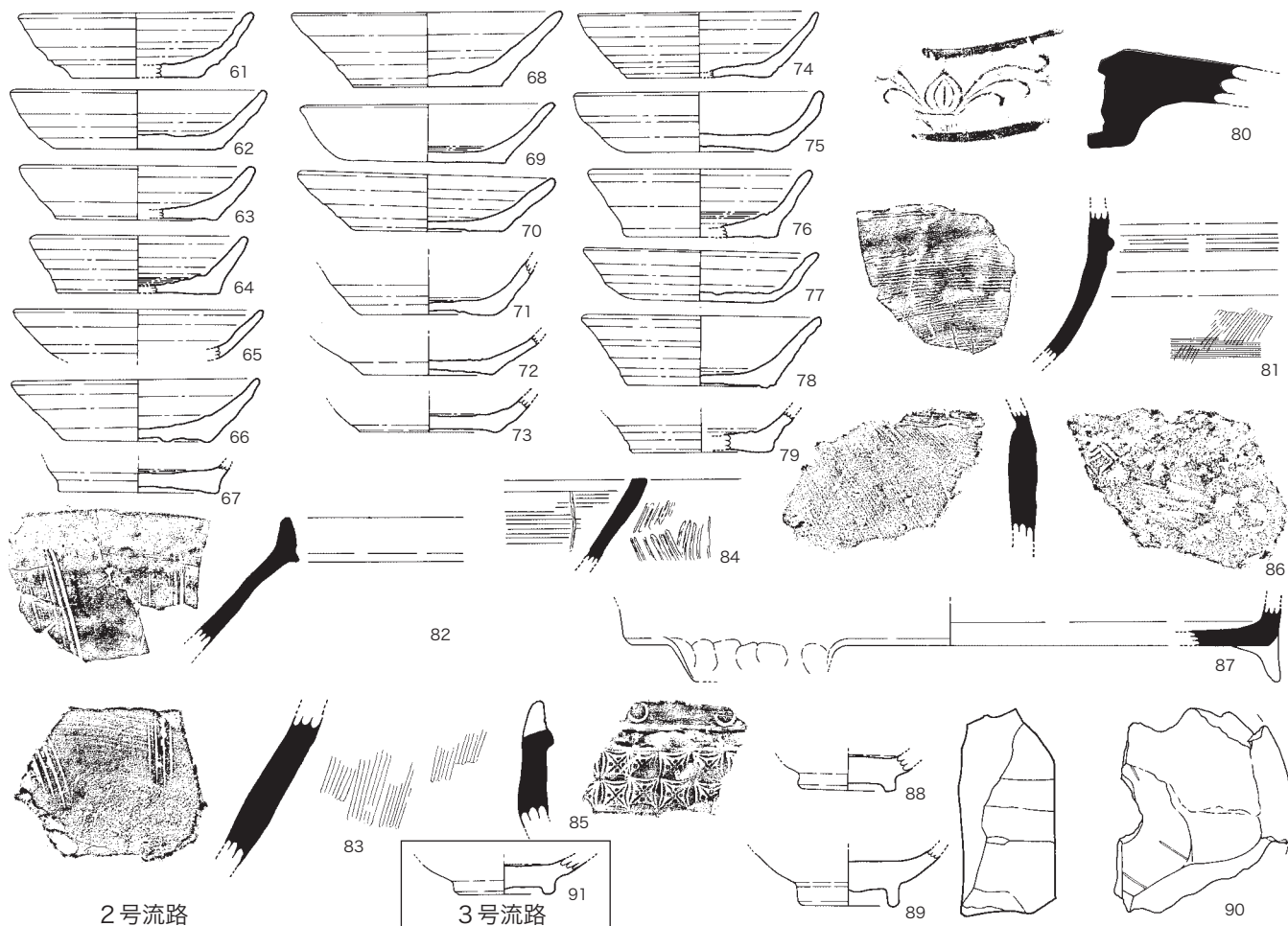
流路出土遺物（第11図、第12図） 34～39は1号流路出土遺物である。34は近世の所産と考えられる。後世の流れ込みによるものか。36・37は青磁の小皿で、37は同安窯系に比定される。38は白磁の小皿である。20と同器種である。39は瓦質の播鉢である。40～90は2号流路出土遺物である。40～46は土師質土器の小皿である。いずれの口縁も直線的に立ち上がるが、40～45は口縁部が外に開き、46は上方に立ち上がる。47～79は土師質土器の坏である。底部は全て糸切りで、板状圧痕が見られるものが圧倒的に多い。47～55は口縁部が内湾しながら上方に立ち上がり、56～73は直線的に外に開く。74・75は直線的に立ち上がり、口縁をわずかに内湾させる。76～79は外反して外に開くものである。80は軒平瓦である。第3唐草まで確認でき、中心飾は蓮の花をモチーフとした三葉文である。81は瓦質土器の胴部である。外面に突帯が施される。釜か？82・83は瓦質の播鉢である。備前系のものと思われる。84は器種不明の瓦質土器である。鉢か？85は第11図1と同一個体で、風炉と思われる。86は火鉢である。外面に菱形のスタンプを施す。87は瓦質土器の底部である。火鉢か風炉であろう。88・89は青磁碗である。系統については判別できなかった。90は石臼である。上下の判別はできなかった。91は3号流路出土の青磁碗である。系統についての判別はできなかった。

柱穴出土遺物（第12図） 紙面の都合上、器形別に配置して説明する。92～95は土師質土器の小皿である。いずれの口縁部も直線的にやや外に向かい立ち上がる。96～108は土師質土器の杯である。ほぼ全ての底部が糸切りで、97・104・106～108には板状圧痕が見られる。96は口縁部が内湾して上方に立ち上がり、98～100は内湾して外に開く。101～108は直線的に立ち上がり、外に開く。109～112は青磁碗である。109・111は龍泉窯系か。113は青白磁の小皿である。内面の一部に朱色の顔料が付着しており、紅皿として用いられていたと考えられる。出土遺構は観察表を参照されたい。



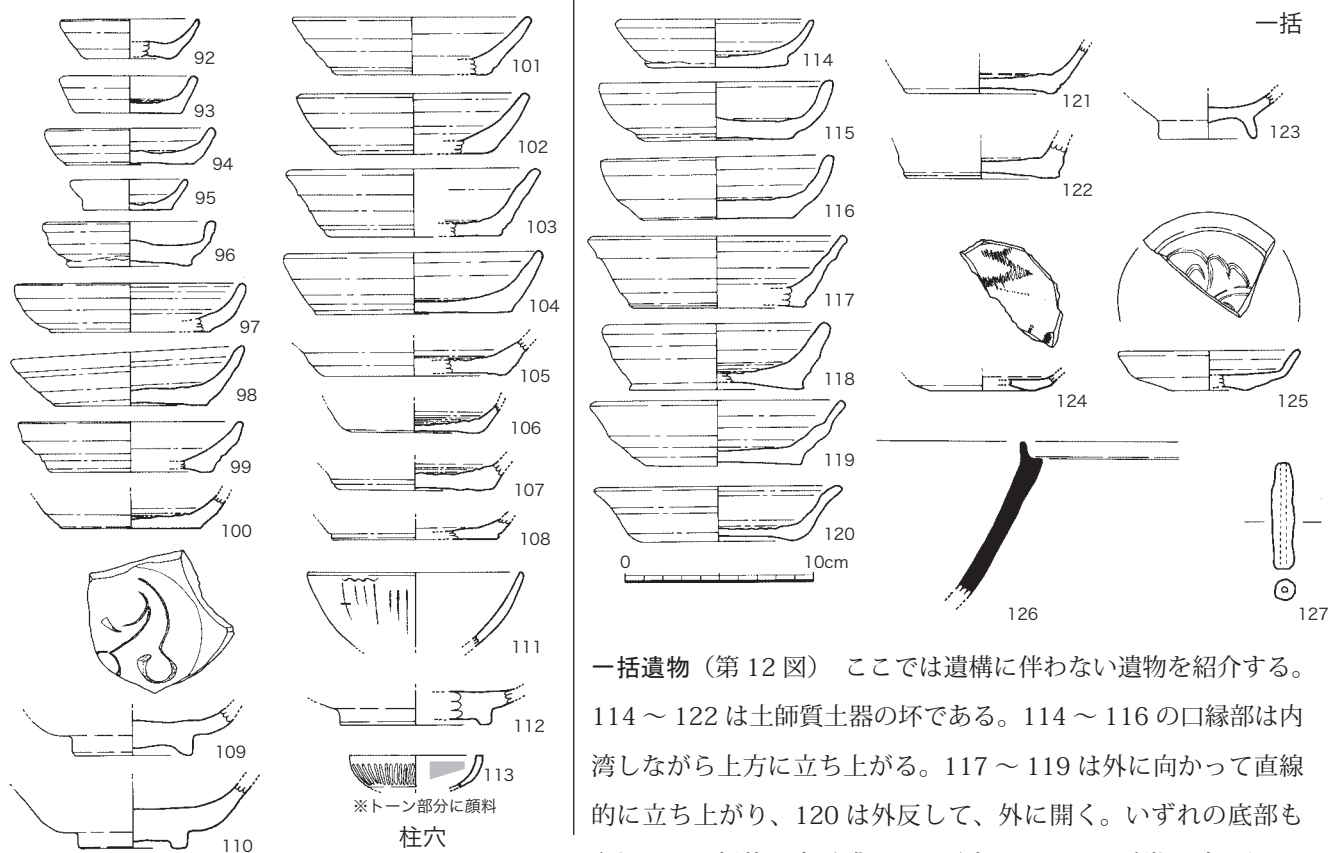
※トーンは鉄分のこびりつき

第11図 出土遺物実測図① (1/4、16のみ 1/6)



2号流路

3号流路



一括

第12図 出土遺物実測図② (1/4)

一括遺物（第12図）ここでは遺構に伴わない遺物を紹介する。114～122は土師質土器の坏である。114～116の口縁部は内湾しながら上方に立ち上がる。117～119は外に向かって直線的に立ち上がり、120は外反して、外に開く。いずれの底部も糸切りで、板状圧痕が残るものが多い。123は近世の碗である。124・125は青磁の小皿で、125は同安窯系、126は龍泉窯系である。126は瓦質土器の口縁で受部をもつ。127は土錘である。

## IV まとめ

今回の調査で出土した遺物は中世のものと近世のものに大別できる。以下それぞれの時期について、得られた資料から考察を行う。

まず、中世期の年代についてである。出土遺物のうち大多数を占める土師質土器坏から年代を検討していくが、今回調査区の南約 100m で実施された 1 次調査では山本・山村両氏の論考（註 1）を参考としており、本調査でもそれに倣うこととする。

出土した坏の底部についてヘラ切りのは見られず、全て糸切りであること、また殆どのものに板状圧痕が見られることから、山本・山村両氏の中世Ⅲ期に比定される。この時期は坏 b・b2 が現れ始め、また輸入陶磁において同安窯系が撤退し龍泉窯系にほぼ統一されていく時期とされる。本調査において坏 b は第 12 図 68、坏 b2 は第 12 図 74・75 などに見られるが、出土した坏の全体数のなかでは少なく、また輸入陶磁についても同安窯系のもが見られることから、本遺跡の年代は中世Ⅲ期のなかでも早い段階にあたる 13 世紀後半～14 世紀前半頃に相当すると考えられる。

次に中世期の遺跡の性格についてであるが、出土遺物のなかでも注目されるのが、瓦と 1 号掘立柱建物から出土している風炉である。これまで市内で風炉に限らず茶の湯に関係する遺構・遺物は出土しておらず、本調査が初の出土例となるが、13 世紀後半～14 世紀前半における国内での茶の湯に関連する遺構・遺物等は城館跡や寺院跡に出土が限られ、一般的に普及しているとは言い難い。瓦の出土と併せて、本遺跡周辺においても身分の高い階層の人物の館か寺院が存在していた可能性が高く、遺跡周辺は竹田別符の推定地でもあることから、別符の経営母体となった施設の存在などが想定される。竹田別符は、藤原基氏の室となった大友親秀の女の所領であったものを、大友一族の小田原景泰・景郷兄弟が買得した経緯が弘安 8（1285）年の『豊後国図田帳』に見られ、『大友氏時所領注文』（貞治 3（1364）年）や『大友親世所領注文』（永徳 3（1383）年）には、日田庄竹田別符の半分が所領として記されている。半分とはいえ所領を確実に取得したことは、この後の大友氏勢力の日田進出における重大な足がかりとなった。

今回の調査における資料は別符の経営母体や大友氏勢力の存在を示すものではないが、この一帯における中心的施設が存在した可能性を窺わせ、中世の日田を考える上で、今後重要な位置付けを占めることになるのは間違いない。

近世の遺物については、量的に多くはないが、考察を行う上で有用な資料が出土している。第 11 図 18 は朝妻焼の碗で、高台内の「朝」銘がその特徴である。朝妻焼は久留米市合川町福聚寺に窯跡が確認されており、久留米藩の御用窯として操業を開始したが、正徳 4 年（1714）～享保 10 年（1725）または 13 年の 10 数年で閉窯したとされる。また、第 11 図 19 の碗の銘は、古伊万里におけるいわゆる渦福であり、18 世紀に類例が多く、字の崩れ具合などから朝妻焼とほぼ同時期にあたる 18 世紀前半の所産と考えられる。いずれも時期や産地が限定されたものであり、肥前を中心とする陶磁器の流通を考える上で興味深い資料であると言える。

おわりに 報告にあたり出土遺物の全てを掲載できなかったことをお詫びいたします。

（註 1）

山本信夫・山村信榮「[10]九州・南西諸島」『中世食文化の基礎的研究』国立歴史民俗博物館研究報告第 71 集 1997  
両氏は坏 b を「…底径の比率は小さく体部は直線的に開き、器高が高い。14 世紀以降目立つようになる。…」、坏 b2 を「深形で口縁をわずかに内湾させる。」としている。以下、年代観は両氏のものによる。

〈参考文献〉

若杉竜太編『上井手遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第 76 集 日田市教育委員会 2007

小野正敏編『図解・日本の中世遺跡』財団法人東京大学出版会 2001

杉本勲編『九州天領の研究—日田地方を中心として—』吉川弘文館 1976

「第五章 歴史時代②」『久留米市史』第十二巻（資料編〈考古〉）久留米市史編纂委員会 1994



第1表 出土土器観察表①

挿図番号	遺構名	種別	器種	法 量			調 整				胎 土	焼 成	色 調		備 考
				口径	底径	器高	外面	内面	内底面	外面			外面	内面	
				(41.2)	-	(10.0)	ナデ、「※」形スタンプ	ナデ、ケズリ、指頭圧痕	-	-			糸切り、板状圧痕	暗灰色	
第11図1	1建	瓦質	風炉	(41.2)	-	(10.0)	ナデ、「※」形スタンプ	ナデ、ケズリ、指頭圧痕	-	-	BCDEG	良好	暗灰色	にぶい黄色	
第11図2	2建	土師質	小皿	-	(6.4)	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ	-	-	ABCH	良好	にぶい黄色	にぶい黄色	
第11図3	3建	青磁	碗	-	-	(3.3)	-	-	-	-	緻密	良好	オリーブ黄色	オリーブ黄色	
第11図4	4建	土師質	坏	-	(8.0)	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り	ABCDEH	良好	橙色	橙色	
第11図5	4建	磁器	碗	(11.4)	-	(2.8)	-	-	-	-	緻密	良好	灰白色	灰白色	
第11図6	4建	青磁	碗	-	-	(3.8)	-	-	-	-	緻密	良好	オリーブ灰色	オリーブ灰色	
第11図7	1井戸	染付	小皿	(12.8)	(7.2)	2.9	-	-	-	-	緻密	良好	灰白色	灰白色	
第11図8	1井戸	染付	碗	-	(4.0)	(3.2)	-	-	-	-	緻密	良好	灰白色	灰白色	
第11図9	1井戸	染付	瓶	-	-	(4.0)	-	-	-	-	緻密	良好	灰白色	灰白色	
第11図10	1井戸	染付	碗	-	-	(4.9)	-	-	-	-	緻密	良好	灰白色	灰白色	
第11図11	1井戸	青磁	碗	-	(4.6)	(4.6)	-	-	-	-	緻密	良好	灰白色	灰白色	
第11図12	1井戸	近世	播鉢	-	-	(3.9)	ナデ、ケズリ	摺目	-	-	緻密	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	
第11図13	1井戸	近世	播鉢	-	-	(5.3)	ナデ	摺目	-	-	緻密	良好	にぶい黄褐色	暗黄灰色	
第11図14	1井戸	近世	瓶	-	(9.4)	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ	-	-	緻密	良好	暗赤褐色	にぶい赤褐色	
第11図15	1井戸	近世	甕	-	-	(6.4)	-	ケズリ	-	-	緻密	良好	-	灰色	
第11図18	11土	染付	碗	(10.8)	4.4	5.5	-	-	-	-	緻密	良好	灰色	灰白色	朝妻焼
第11図19	11土	染付	碗	(10.2)	4.6	5.5	-	-	-	-	緻密	良好	白色	白色	古伊万里
第11図20	27土	白磁	小皿	(8.2)	(3.4)	2.2	-	-	-	-	緻密	良好	灰白色	灰白色	
第11図21	27土	瓦質	-	-	-	(6.4)	花卉状スタンプ	-	-	-	E	良好	暗灰色	暗灰色	
第11図22	13土	瓦質	播鉢	-	-	(6.1)	タタキ、ナデ	摺目、ケズリ	-	-	DE	良好	灰色	灰色	
第11図24	4土	土師質	小皿	(8.0)	(5.8)	1.7	回転ナデ、指頭圧痕	回転ナデ	ナデ	-	ABCDEFGHIH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第11図25	14土	土師質	小皿	(6.6)	(4.6)	1.7	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り	ACDEG	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第11図26	3土	土師質	坏	10.7	6.6	3.0	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ACDEGH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第11図27	12土	土師質	坏	(11.4)	7.0	3.4	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ACDEFGH	良好	灰白色	灰白色	
第11図28	23土	土師質	坏	11.0	7.2	3.4	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDFG	良好	灰白色	灰白色	
第11図29	18土	土師質	坏	-	(7.4)	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り	ABCDEH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第11図30	20土	土師質	坏	-	(7.2)	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り	ACDEG	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第11図31	21土	土師質	坏	(12.0)	(9.0)	2.1	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り、板状圧痕	DEG	良好	にぶい黄色	にぶい黄色	
第11図32	24土	土師質	坏	(13.4)	(8.2)	2.9	回転ナデ	回転ナデ	-	-	ABCDEFH	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	
第11図33	24土	土師質	坏	-	(8.0)	(0.9)	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEF	良好	浅黄色	浅黄色	
第11図34	1流路	染付	碗	-	(4.8)	(2.3)	-	-	-	-	緻密	良好	灰白色	灰白色	高台底面露胎
第11図35	1流路	磁器	皿	(11.4)	(5.6)	2.8	-	-	-	-	緻密	良好	灰白色	灰白色	
第11図36	1流路	青磁	小皿	-	4.2	(1.5)	-	-	-	-	緻密	良好	オリーブ灰色	オリーブ灰色	底面露胎
第11図37	1流路	青磁	小皿	-	4.8	(1.1)	-	-	点撞文	-	緻密	良好	灰オリーブ色	灰オリーブ色	同安系系、底面露胎
第11図38	1流路	白磁	小皿	-	4.0	(1.4)	-	-	重ね跡	-	緻密	良好	白色	白色	
第11図39	1流路	瓦質	播鉢	(30.4)	(6.2)	11.3	ハケメ、指頭圧痕	摺目	-	-	緻密	良好	黄灰色	青灰色	
第11図40	2流路	土師質	小皿	(6.2)	(4.4)	1.5	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	板状圧痕	ABCDEH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第11図41	2流路	土師質	小皿	8.1	6.4	1.8	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第11図42	2流路	土師質	小皿	(7.8)	5.4	2.2	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り	ABCDEFH	良好	橙色	橙色	
第11図43	2流路	土師質	小皿	(10.0)	(7.2)	2.4	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り	ABCDEFH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第11図44	2流路	土師質	小皿	(8.2)	(6.6)	1.6	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第11図45	2流路	土師質	小皿	(7.0)	(5.6)	1.7	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り	ABCDEH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第11図46	2流路	土師質	小皿	(11.0)	(9.0)	2.3	指頭圧痕、ナデ	指頭圧痕、ナデ	ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDE	良好	暗褐色	暗褐色	
第11図47	2流路	土師質	坏	(12.4)	7.2	3.0	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り	ABCDEFH	良好	橙色	橙色	
第11図48	2流路	土師質	坏	12.6	9.4	3.1	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	橙色	橙色	
第11図49	2流路	土師質	坏	13.5	9.2	3.1	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	
第11図50	2流路	土師質	坏	12.7	8.8	2.6	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	橙色	橙色	
第11図51	2流路	土師質	坏	(13.0)	8.6	3.4	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	褐色	褐色	
第11図52	2流路	土師質	坏	14.2	8.8	3.6	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	灰白色	灰白色	
第11図53	2流路	土師質	坏	(13.8)	(7.4)	3.5	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り	ADEFH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第11図54	2流路	土師質	坏	(13.0)	(9.0)	3.9	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	褐色	褐色	
第11図55	2流路	土師質	坏	12.5	7.6	3.8	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り	ABCDEFH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第11図56	2流路	土師質	坏	(14.0)	8.2	3.2	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り、板状圧痕	ABDEH	良好	褐色	褐色	
第11図57	2流路	土師質	坏	13.9	8.0	3.3	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	褐色	褐色	
第11図58	2流路	土師質	坏	12.8	7.6	3.1	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	褐色	褐色	
第11図59	2流路	土師質	坏	13.7	9.2	2.9	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	褐色	褐色	
第11図60	2流路	土師質	坏	(14.8)	(9.0)	3.0	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDE	良好	淡黄色	淡黄色	
第12図61	2流路	土師質	坏	(13.0)	(7.2)	3.6	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEH	良好	黄褐色	黄褐色	
第12図62	2流路	土師質	坏	14.2	9.4	3.3	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第12図63	2流路	土師質	坏	(13.0)	(8.8)	3.0	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	
第12図64	2流路	土師質	坏	(12.2)	(9.0)	3.2	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEH	良好	黄褐色	暗黄褐色	
第12図65	2流路	土師質	坏	(13.8)	-	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ	-	-	ABCDEH	良好	褐色	褐色	
第12図66	2流路	土師質	坏	13.7	8.2	3.5	回転ナデ	回転ナデ	ナデ、指頭圧痕	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	
第12図67	2流路	土師質	坏	-	(8.8)	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEH	良好	淡黄色	淡黄色	
第12図68	2流路	土師質	坏	(15.0)	8.2	4.1	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り、板状圧痕	ACDEFH	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	
第12図69	2流路	土師質	坏	14.0	9.0	3.4	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ACDH	良好	灰白色	灰白色	
第12図70	2流路	土師質	坏	14.2	8.2	3.3	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	灰白色	灰白色	
第12図71	2流路	土師質	坏	-	7.6	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第12図72	2流路	土師質	坏	-	(7.2)	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDE	良好	にぶい褐色	赤褐色	
第12図73	2流路	土師質	坏	-	7.8	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第12図74	2流路	土師質	坏	(13.2)	(7.8)	3.6	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEH	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	
第12図75	2流路	土師質	坏	(13.8)	(8.2)	3.3	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	

第2表 出土土器観察表②

挿入番号	遺構名	種別	器種	法量			調整				胎土	焼成	色調		備考
				口径	底径	器高	外面	内面	内底面	外底面			外面	内面	
第12図76	2流路	土師質	坏	(12.4)	(8.2)	3.8	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第12図77	2流路	土師質	坏	(12.9)	7.8	2.8	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第12図78	2流路	土師質	坏	(13.2)	8.2	3.9	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第12図79	2流路	土師質	坏	-	(7.8)	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第12図81	2流路	瓦質	釜	-	-	(8.4)	回転ナデ、ハケメ	回転ナデ、ハケメ、指頭圧痕	-	-	BCDEF	良好	灰色	灰色	
第12図82	2流路	瓦質	掃鉢	-	-	(7.4)	-	摺目	-	-	DEH	良好	暗褐色	暗青灰色	
第12図83	2流路	瓦質	掃鉢	-	-	(7.3)	ハケメ	摺目、ハケメ	-	-	ABCDEFH	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	
第12図84	2流路	瓦質	鉢	-	-	(4.7)	ハケメ、ナデ	ナデ	-	-	E	良好	暗黄褐色	にぶい黄褐色	
第12図85	2流路	瓦質	風炉	-	-	(6.8)	ナデ、「窓」形スタンプ	ナデ、ケズリ、指頭圧痕	-	-	BCDEG	良好	暗灰色	にぶい黄色	第11図1と同一
第12図86	2流路	瓦質	火鉢	-	-	(7.3)	菱形スタンプ	ハケメ	-	-	ABCDE	良好	暗灰色	暗灰色	
第12図87	2流路	土師質	火鉢	-	(36.0)	(4.0)	-	-	-	-	BCDEG	良好	暗灰色	暗灰色	
第12図88	2流路	青磁	碗	-	5.2	(2.1)	-	-	-	-	緻密	良好	オリーブ灰色	オリーブ灰色	高台底面露胎
第12図89	2流路	青磁	碗	-	5.0	(3.2)	-	-	-	-	緻密	良好	オリーブ灰色	オリーブ灰色	高台底面露胎
第12図91	3流路	青磁	碗	-	5.4	(1.9)	-	-	-	-	緻密	良好	オリーブ黄色	オリーブ黄色	高台底面露胎
第12図92	P61	土師質	小皿	(7.2)	(4.6)	2.1	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り	ABCEFGH	良好	暗褐色	暗褐色	
第12図93	P117	土師質	小皿	7.3	5.7	2.0	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り	ADEFH	良好	淡黄色	灰白色	
第12図94	P127	土師質	小皿	(9.0)	7.2	1.9	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り	ADEFGH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第12図95	P128	土師質	小皿	6.2	4.6	1.7	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り	ABDE	良好	灰白色	灰白色	
第12図96	P127	土師質	坏	(9.2)	6.6	2.4	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEGH	良好	灰白色	灰白色	
第12図97	P29	土師質	坏	(12.2)	(8.4)	2.6	回転ナデ	回転ナデ	-	糸切り	ACDEG	良好	にぶい黄色	にぶい黄色	
第12図98	P142	土師質	坏	12.4	8.0	3.2	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第12図99	P29	土師質	坏	(12.0)	(8.4)	2.7	回転ナデ	回転ナデ	-	糸切り	BCDEG	良好	にぶい黄色	にぶい黄色	
第12図100	P29	土師質	坏	-	(7.4)	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り	ABCDE	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	
第12図101	P11	土師質	坏	(10.6)	(8.0)	3.1	回転ナデ	回転ナデ	-	糸切り	ABCDEG	良好	にぶい黄褐色	赤褐色	
第12図102	P68	土師質	坏	(12.4)	(8.0)	3.2	回転ナデ	回転ナデ	-	-	ABCDEGH	良好	にぶい黄褐色	灰白色	
第12図103	P113	土師質	坏	(13.4)	(9.0)	3.6	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り	ABCDEFH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第12図104	P143	土師質	坏	(13.8)	(10.4)	3.3	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第12図105	P59	土師質	坏	-	(9.6)	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り	ABCDEFH	良好	黄褐色	褐色	
第12図106	P28	土師質	坏	-	(7.4)	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDG	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第12図107	P115	土師質	坏	-	(8.0)	(1.6)	回転ナデ	-	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEH	良好	灰白色	灰白色	
第12図108	P122	土師質	坏	-	(8.6)	(1.1)	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り	ABCDEG	良好	褐色	褐色	
第12図109	P20	青磁	碗	-	6.0	(2.4)	-	-	-	-	緻密	良好	オリーブ黄色	オリーブ黄色	龍泉窯系
第12図110	P29	青磁	碗	-	(5.8)	(3.5)	-	-	-	-	緻密	良好	明緑灰色	明緑灰色	高台底面露胎
第12図111	P92	青磁	碗	(11.4)	-	(4.0)	-	-	-	-	緻密	良好	明緑色	明緑色	龍泉窯系
第12図112	P33	青磁	碗	-	(7.8)	(1.9)	-	-	-	-	緻密	良好	明緑灰色	明緑灰色	
第12図113	P29	青白磁	紅皿	(7.0)	-	(1.7)	スタンプ	回転ナデ	-	-	緻密	良好	灰白色	灰白色	
第12図114	一括	土師質	坏	10.5	7.4	2.6	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り	ABCDEFGH	良好	褐色	淡黄色	
第12図115	一括	土師質	坏	(12.4)	8.0	3.1	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り	ABCDEFH	良好	褐色	褐色	
第12図116	一括	土師質	坏	(12.4)	8.0	3.3	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	褐色	褐色	
第12図117	一括	土師質	坏	(13.8)	(9.0)	3.8	回転ナデ	回転ナデ	-	-	ABCDE	良好	褐色	褐色	
第12図118	一括	土師質	坏	(12.1)	(9.2)	3.5	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEH	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第12図119	一括	土師質	坏	(13.4)	8.0	3.5	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	灰白色	灰白色	
第12図120	一括	土師質	坏	(13.1)	8.0	2.9	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCDEFH	良好	にぶい黄褐色	褐色	
第12図121	一括	土師質	坏	-	8.0	(2.6)	回転ナデ	回転ナデ	工具ナデ	糸切り、板状圧痕	ABCD	良好	浅黄褐色	浅黄褐色	
第12図122	一括	土師質	坏	-	(8.0)	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り	ABCDE	良好	にぶい黄色	にぶい黄色	
第12図123	一括	土師質	碗	-	5.2	(2.4)	-	-	-	-	緻密	良好	淡黄色	淡黄色	
第12図124	一括	青磁	小皿	-	(5.2)	(0.9)	-	-	点描文	-	緻密	良好	灰色	灰色	同安窯系
第12図125	一括	青磁	小皿	(9.6)	(3.8)	2.1	-	-	-	-	緻密	良好	オリーブ黄色	オリーブ黄色	龍泉窯系、底面露胎
第12図126	一括	瓦質	-	-	-	(8.3)	-	-	-	-	ABCE	良好	暗灰色	暗灰色	

法量の単位はcm。() 書きは、残存と復原を表す。

胎土：A角閃石 B石英 C長石 D赤色粒子 E白色粒子 F黒色粒子 G雲母 H砂粒

第3表 出土瓦・石製品・土製品等観察表

挿入番号	遺構名	種別	器種	法量			重量	調整			胎土	焼成	色調		備考
				口径	底径	器高		外面	内面	底面			外面	内面	
第11図16	1井戸	石製品	石臼	32.7	-	10.5	-	-	-	-	-	-	-	-	
第11図17	11土	瓦?	-	14.0	18.8	1.8	674	ナデ	ナデ、ケズリ	-	緻密	良好	暗灰色	-	
第11図23	24土	瓦質	-	-	-	5.6	-	ナデ、ハケメ	不明瞭	-	CEG	良好	灰色	-	
第12図80	2流路	瓦	軒平瓦	9.6	8.8	5.2	420	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	-	ABCDEFH	やや良好	にぶい黄褐色	-	
第12図90	2流路	石製品	石臼	-	-	5.0	368	-	-	-	-	-	-	-	
第12図127	一括	土製品	土鍾	1.2	5.6	1.0	7.2	不明瞭	不明瞭	-	-	良好	にぶい褐色	-	

法量の単位はcm。() 書きは、残存と復原を表す。

胎土：A角閃石 B石英 C長石 D赤色粒子 E白色粒子 F黒色粒子 G雲母 H砂粒

写真図版



①調査区近景（北から）



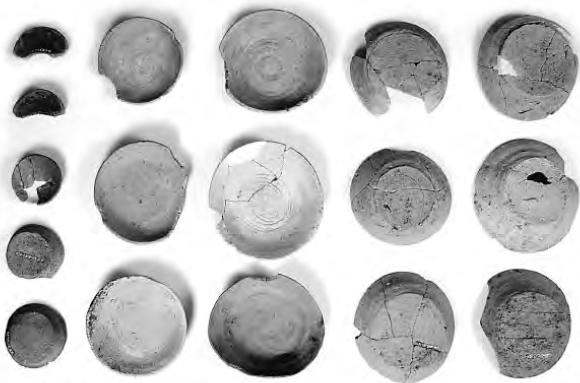
②1・2号掘立柱建物（真上から）



③3～5号掘立柱建物（真上から）



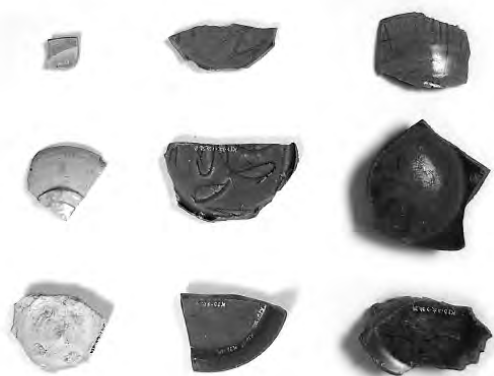
④1号井戸（南から）



⑤出土土師質土器



⑥出土瓦質土器



⑦出土輸入陶磁器



⑧出土近世遺物

# 報告書抄録

ふりがな	かみいでいせき
書名	上井手遺跡3次
副書名	
巻次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第86集
編著者名	矢羽田 幸宏
編集機関	日田市教育庁文化財保護課
所在地	〒877-0077 日田市南友田町 516-1
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601 日田市田島 2-6-1
発行年月日	2008年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上井手遺跡3次	大分県日田市 大字日高字其田 923-1 ほか	44204-6	651164	33° 18' 26"	130° 56' 51"	20060605 ～ 20060713	960 m <sup>2</sup>	園舎改築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上井手遺跡3次	集落跡	中世 近世	掘立柱建物5棟 井戸1基 土坑28基 流路3条 柱穴多数	土師質土器 瓦質土器 青磁 染付	

## 上井手遺跡3次

日田市埋蔵文化財調査報告書第86集

2008年3月31日

編集 日田市教育庁 文化財保護課  
877-0077 大分県日田市南友田町 516-1  
発行 日田市教育委員会  
877-8601 大分県日田市田島 2-6-1  
印刷 日田時報紙器印刷(株)  
877-0086 大分県日田市二串町 345-6